

平成 21 年 5 月 29 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2005～2008

課題番号：17520118

研究課題名（和文）日本統治下台湾に関する日本近代文学と「日本語文学」の比較研究

研究課題名（英文）Comparative study of Japanese modern literature and the literature in Japanese on TAIWAN under Japanese rule

研究代表者

浦田 義和（URATA YOSHIKAZU）

佐賀大学・文化教育学部・教授

研究者番号：00151944

研究成果の概要：まず、国立台湾文学館（台南市）での研究情報収集及び研究者交流を通して、「台湾文学」研究の台湾における組織化を基礎とした飛躍的な進展の状況を把握できたことである。

次に、資料収集に関しては、日本国内外で発行された日本統治期台湾文学集成などの基本的文献の収集に加え、おもに上記台湾文学館で、作家の自筆原稿や書簡集などを確認し、これまで発行された個人全集のもとになった資料集のいくつかを収集できたことも貴重であった。

また、現存作家の数人に直接インタビューをし、口述資料を収集した。

最後に、日本国内外で開催された国際学会に出席して、日台の研究者に加え、特に中国本土の研究者による台湾をテーマとする発表に触れ、日中台の三か国の共同研究の可能性を確認できたことも、その成果である。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	1,300,000	0	1,300,000
2006年度	900,000	0	900,000
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	3,700,000	450,000	4,150,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：日本統治期文学、植民地文学、日本近代文学、台湾文学、日本語文学、占領と文学、昭和文学、アジアの文学

1. 研究開始当初の背景

従来の日本近代文学研究は、東京文壇を中心に、漱石、鴎外、藤村、芥川、谷崎、川端などなど著名作家を中心にし、また外国との関係についても欧米との関係が主流で、アジア

との関係では、中国のたとえば魯迅などとの関係が主に研究されてきた。しかし、近年になって、いわゆる旧日本の植民地に関する研究、つまり「植民地文学」研究がしだいに注目され、基本的作品の出版も次第になされて

きている。その中で、台湾文学の研究に関しても、従来中国文学研究の中の一つとしての位置づけが濃厚であったが、次第に台湾文学を独立させて研究する方向が進んできて、基本的作品の出版社による刊行もかなり見られるようになってきた。緑陰書房の「日本統治期台湾文学日本人作家・台湾人作家集」(合わせて12巻)「日本統治期台湾文学集成」(20巻) ゆまに書房の「日本植民地文学精選集」14巻などである。

日本近代文学研究においては、学会誌などに植民地文学研究の特集が散見されるが、佐藤春夫や中村地平などの一部の作家への言及が主である。比較して台湾では、国立台湾文学館の設立など、台湾文学の研究が盛んに推奨されている現状である。

2. 研究の目的

上記のような国内および国外の研究の現状に鑑み、日本近代文学と台湾文学の比較研究を、一部の著名な日本人作家だけを対象にするのではなく、台湾人作家をも視野に入れ、広く全体像を把握するための視点を探りたい。その場合、単に台湾文学だけを対象にするのではなく、朝鮮、満州、南方、南洋、更に沖縄まで視野を広げた展望のもとに探究したい。幸い、研究代表者は、これまで、研究代表者として科研費「被占領下沖縄における文学表現の研究」、研究分担者として「近大沖縄の文学資料の収集・研究とデータ・ベース化」「近大沖縄文学の比較ジャンル論に関する基礎的研究」「アメリカ占領下における沖縄文学の基礎的研究」、及び代表者として「旧日本植民地化朝に関する日本近代文学と日本語文学の比較研究」を実施している。その成果も取り入れながら、日本統治下台湾に関わる日本近代の文学作品と「日本語文学」作品との比較・検討を通して、他のいわゆる植民地文学との同質性や異質性を明らかにするための、国際的な共同研究の基盤を作る。

3. 研究の方法

国内資料収集

すでに出版されている基本的作品集、評論集などを、おもに緑陰書房、ゆまに書房など、植民地文学関係出版物の多い出版社を中心にして可能な限り購入する。

また、国立国会図書館、法政大学図書館・法政大学沖縄文化研究所、沖縄県公文書館、琉球大学図書館、神奈川県立図書館などに出向いて、複写資料を収集する。

国外資料収集

台湾国立台湾文学館、真理大学台湾文学研究所、台湾大学図書館などに出向いて、情報入手するとともに出版物及び複写資料を収集する。

また、台北の南天書局などの書店で、出版物などの資料を収集する。

学会等出席

国内では、日本社会文学学会、植民地文化研究会などの大会・研究会、国際シンポジウム、国外の大学の大会・研究会、国際シンポジウムなどで発表及び参加し、国内外の研究者と情報交換するなど、研究者交流をする。

作家インタビュー

台湾在住、存命中の作家で、台北の 氏、高雄の 氏の自宅に伺い、ご本人から文学に関わる話を伺い、情報収集する。

翻訳

いまだ日本語に翻訳されていない資料で、重要と思われる資料を、大学院の中国人留学生や日本人学生の協力を得て翻訳する。

4. 研究成果

(1) 基本的資料及び関連資料の収集(国内) テキスト(主なもの)

「日本統治期台湾文学集成日本人作家作品集」全6巻(緑陰書房)

「日本統治期台湾文学集成台湾人作家作品集」全6巻

「日本統治期台湾文学集成文芸評論集」全5巻

「日本統治期台湾文学集成台湾戯曲・脚本集」全5巻

「日本統治期台湾文学集成台湾長編小説集」全3巻

「日本統治期台湾文学集成台湾隨筆集」全3巻

「日本植民地文学精選集台湾編」全14巻(ゆまに書房)(中村地平「台湾小説集」、真杉静枝「ことづけ」他)

研究書(主なもの)

「日本統治期台湾文学研究文献目録」(緑陰書房)中島利郎ほか著

「台湾新文学運動の展開」(研文出版)河原功著

「よみがえる台湾文学」下村作次郎ほか著

(2) 基本的資料及び関連資料の収集(台湾) テキスト(主なもの)

「台湾新文学雑誌叢刊」全34巻(「南音」「フォルモサ」「文芸台湾」「台湾文学」「台湾新文学」「台湾文芸」など収録)

関連図書

「日治時期台湾公学校與国民学校国語読本」第一期、第二期、第三期、第四期、第五期(南

天書局影印本)

(3) 国立台湾文学館収蔵資料の収集

刊行物

「楊逵全集」全14巻

「龍瑛宗全集・日本語版」全5巻

「呂赫若日記」全2巻

複写資料

「台湾現当代作家評論資料目録」第一段階、第二段階

「台湾文学作家事典」

「台湾文芸評論集(雑誌編)」

「龍瑛宗全集資料」フィルム(私家版)

(4) 台湾人作家へのインタビュー・口述資料の収集

葉石涛氏へのインタビューにおいて、その生い立ちから、文学に志したころの事、日本統治期のこと、またこれまでの文学の状況や、日本語で文章を書くことなどについて聞き取りを行った。その内容の大部分は、のちに収集した中国語書籍「口述歴史 葉石涛先生訪問記」(高雄市文献委員会編)と重なっている。しかし、現在の執筆活動について、恋愛小説「胡蝶巷春夢」など、大衆への眼差しを確認できたことは収穫であった。

巫永福氏については、当時の日本への留学について、裕福な子弟が多かったこと、それゆえ留学先の日本では、朝鮮からの留学生や沖縄出身の学生とは交わらなかったこと、帰台湾後、留学で得た知識の活用が台湾になく、意気粗相した学生が多かったことなどをじかに聞くことができた。

(5) 国内外国際シンポジウム出席等を通じた研究者交流

国内

日本社会文学会、植民地文化研究会等の大会に出席し、植民地文学に関わる研究発表会に出席。

国際共同シンポジウム「帝国主義と文学」(2008年愛知大学)などへの出席

海外

グローバル時代における言語と文学に関する国際会議(2005年中国・首都師範大学)などへの出席

以上の参加を通して、国内研究者として、下村作次郎(天理大学)、川村湊(法政大学)、星名宏修(琉球大学)、岡田英樹(立命館大学)、又吉盛清(沖縄大学)、西田勝(法政大学)、岡林稔(宮崎大学)他。国外研究者として、張泉(中国北京市社会科学院)、黄英哲(愛知大学)、石其琳(筑紫女学院大学)、曾麗蓉(国立台湾文学館)、黄翠娥(輔仁大学)、張良澤(真理大学)、呉佩珍(東呉大学)、陳芳明(政治大学)、林瑞明(成功大学)、莫素微(中華技術学院)他の研究者と交流した。

(6) 中国語文献資料の翻訳

「台湾新文学運動雑誌叢刊」に収録されている日本統治期台湾新文学運動雑誌の「先発部隊」は、中国語で書かれていて、台湾の近代文学出発の重要な資料と考えられるが、未だ日本語に翻訳されていないので、佐賀大学大学院留学生の協力の下、そのかなりの部分を翻訳し、順次発表している。翻訳作業の結果、台湾近代文学の黎明期は、伝統的文芸韻文や読み物から、新しい表現を模索し、社会的観点や民衆の視点の必要性を説いていることが確認できた。

(7) 台湾文学の特徴

とりあえず、以下の一点のみ取り上げる。

「台湾と朝鮮の大学における文学雑誌の比較」

収集した資料の一つに台北帝国大学学内短歌会発行のちに台大文学会発行雑誌「台大文学」(昭和11年第1巻から昭和18年第8巻まで収集)があるが、同時期を含んで旧朝鮮の京城帝国大学とかかわる雑誌に城大文学社発行の「城大文学」(昭和11年2月第2号から昭和11年11月第5号まで収集)がある。両者を比較すると、「台大文学」は、学内学会誌の性格が強く、執筆陣に教師も見られ、創作は、詩、漢詩、短歌が主で研究・評論も多い。たいして「城大文学」は、圧倒的に創作(小説と詩)が主流である。たとえば「台大文学」1巻2号は、研究編、評論1編、詩2編、漢詩1編、短歌4編に対して「城大文学」第2号は、小説のみ9編である。また「台大文学」1巻6号は研究5編、評論1編、エッセイ1編、詩2編、漢詩1編単価4編に対し、「城大文学」第5号は、小説5編、詩2編である。

以上のことから、昭和11年時点での大学とかかわる文学雑誌の傾向は、おおそ台湾の台北帝国大学が学問研究的傾向が強く、たいして朝鮮の京城帝国大学は文学的傾向が強いということが、まずは指摘できるだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5件)

ハン・イエンウェン、浦田義和、「日本統治期『台湾』新文学運動雑誌『先発部隊』一部翻訳(3)」、佐賀大文、査読無、37号、2008年、pp51-62
浦田義和、「徳永直と満州」、孟宗竹に吹

く風(徳永直没後50年記念事業期成会) 査読有、2008年、pp22-37
ハン・イエウン、浦田義和、「日本統治期『台湾』新文学運動雑誌『先発部隊』一部翻訳(2)」_レ、佐賀大文、査読無、36号、2008年、pp58-66
浦田義和、「戦後60年を問う 文学の視点から一戦争・基地と文学」_レ、論叢(筑紫女学園大学国際文化研究所) 査読有、17号、2006年、pp271-284
浦田義和、ハン・イエウン、他、「日本統治期『台湾』新文学運動雑誌『先発部隊』一部翻訳(1)」_レ、佐賀大文、査読無、35号、2006年、pp73-79

取得状況(計0件)
なし

〔その他〕
なし

〔学会発表〕(計 6件)

浦田義和、日本近代文学とポスト・コロニアリズム、カイロ大学日本語学科ゼミナール、2008年11月17日、エジプト・カイロ大学

浦田義和、徳永直と満州、徳永直没後50年記念事業期成会、2008年5月31日、熊本県民交流館パレアホール

浦田義和、戦争文学の視点から、日本社会文学会九州・沖縄ブロック、2007年5月19日、奄美サンプラザホテル

浦田義和、隠蔽と欲望、日本近代文学会、2006年10月28日、九州大学

浦田義和、戦争文学に関する若干の考察、佐賀大学国文学会、2005年、12月17日

浦田義和、米国占領下沖縄の文学、グローバル時代における言語と文学に関する国際会議、2005年8月24日、中国・首都師範大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浦田 義和 (URATA YOSHIKAZU)
佐賀大学・文化教育学部・教授
研究者番号：00151944

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

〔図書〕(計 2件)

田中豊治、浦田義和、他、昭和堂、アジア・コミュニティの多様性と展望、2008年pp208-229

浦田義和、法政大学出版局、占領と文学、2007年337p

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

なし